

社会福祉法人が地域に果たす約束

～グッドライフの実現を地域とともに～

法人名	社会福祉法人よつ葉の会
事業所名	特別養護老人ホーム瀬古の家
サービス種別	介護老人福祉施設
発表者 職種・氏名	施設長 仙田裕貴

社会福祉法人よつ葉の会が名古屋市守山区・瀬古学区で運営する特別養護老人ホーム「瀬古の家」では、「地域に根ざし、地域とともにある福祉」を基本姿勢とし、施設入居者へのケアにとどまらず、地域に暮らすすべての住民の皆さまを対象に、様々な地域貢献・社会貢献活動を展開しています。私たちは、瀬古の家を「地域に開かれた福祉拠点」と位置づけ、地域の課題や声に耳を傾け2017年8月1日開所より、日々の支援と交流の場づくりを積み重ねてきました。

その中核を担う活動が、毎月開催している高齢者サロン活動や、みんなの食堂です。高齢者サロンでは、音楽や体操を通じて地域の高齢者が孤立することなく、健康と交流を楽しめる時間を提供しています。みんなの食堂では、子どもから高齢者まで多世代と一緒に食事を囲み、地域に安心とつながりを育む場をつくっています。

さらに、認知症のある方やご家族、地域住民が気軽に集える認知症カフェの開催、地域包括支援センターや福祉サービス事業所との連携、ボランティア・地域団体との協働、災害時の福祉避難所としての備え、そして介護福祉士実習生の受け入れや福祉人材育成への取り組みなど、多方面から地域福祉を支える体制を築いています。こうした取り組みを通じて、瀬古の家は「施設の中にとどまる福祉」ではなく、「地域とともに育む福祉」を実現する拠点として、福祉専門職と地域住民が手を取り合い、多世代が支え合える共生の地域社会づくりに貢献しています。本発表では、こうした視点から、瀬古の家が果たす地域福祉の役割と実践をご紹介します。



【高齢者の孤立を防ぎ、心身の健康を支える「サロン活動」】

令和6年度実績（年間利用者数） ヨガ体操：320名 歌声玉手箱（歌声喫茶）：458名

地域に暮らす高齢者、特に一人暮らしの方々が安心して過ごせる居場所づくりの一環として、「高齢者サロン活動」を毎月2回（基本：隔週月曜日）開催しています。内容は、音楽に合わせて声を出し楽しむ「歌声玉手箱」と、無理なく体を動かす「ヨガ体操」。どちらも誰でも気軽に参加できるプログラムで、笑顔と会話があふれる、地域に根ざした交流の場となっています。これらの活動は、高齢者の心身の健康維持や、孤立防止、地域住民同士のつながりづくりに貢献しており、瀬古の家が果たす地域福祉の大切な役割のひとつです。

上半期				下半期			
4月6日	28名	7月3日	21名	10月2日	28名	1月15日	28名
4月8日	35名	7月8日	31名	10月28日	38名	1月27日	45名
5月1日	28名	8月7日	27名	11月6日	26名	2月5日	26名
5月27日	31名	8月26日	43名	11月11日	40名	2月3日	42名
6月5日	30名	9月4日	25名	12月4日	27名	3月5日	26名
6月10日	42名	9月9日	27名	12月23日	42名	3月10日	42名

【音楽と交流で心をつなぐ 認知症カフェ】

令和6年度実績（年間利用者数） 合計利用者数：220名

認知症のご本人ご家族、地域住民が気軽に立ち寄れる「認知症カフェ」を毎月1回程度開催しています。医療・介護の専門職が連携し、認知症に関する不安や悩みを共有できる、安心の相談・交流の場として定着しています。毎回好評なのが、「キャラバンよつ葉」による音楽演奏。懐かしい歌や生演奏に触れることで、参加者の笑顔が自然とあふれ、地域内外から多くの方にご参加いただいています。また、機能訓練体操や季節ごとのミニイベントなども取り入れ、心身のリフレッシュにもつながっています。認知症に関する正しい知識の普及と、地域のつながりづくりを目的としたこの活動は、瀬古の家が地域福祉の担い手として果たす重要な役割のひとつです。

上半期				下半期			
4月24日	22名	7月24日	0名	10月23日	5名	1月22日	19名
		7月31日		10月29日	16名		
5月22日	8名	8月28日	9名	11月25日	13名	2月19日	21名
				11月27日	6名	2月26日	4名
6月26日	21名	9月25日	19名	12月11日	14名	3月19日	18名
				12月25日	4名	3月26日	5名

【世代をこえてつながる、地域の憩いの場 ～みんなの食堂～】

令和6年度 実績（年間利用者数） 大人：664名 子ども：193名

地域子どもたちや子育て世帯、高齢者の方々を対象に、毎月第4土曜日に「みんなの食堂」を開催しています。会場となる1階のよつ葉ホールは、地域の誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場として親しまれています。コロナ禍以降は、感染対策に配慮しながらお持ち帰りのお弁当形式での

実施を継続。また、夏休み期間中には、フードパントリー配布や音楽イベントなどの特別企画も実施し、子育て世帯を中心に大変好評をいただいています。「みんなの食堂」は、食を通じて地域のつながりを育み、孤立を防ぐ大切な交流の場となっています。今後も地域のニーズに応えながら、誰もが安心して立ち寄れる“居場所づくり”を続けてまいります。

上半期		下半期	
4月6日	大人59名 こども11名	10月5日	大人54名 こども15名
5月7日	大人60名 こども10名	11月2日	大人45名 こども15名
6月1日	大人61名 こども20名	12月7日	大人55名 こども18名
7月6日	大人60名 こども19名	1月11日	大人53名 こども10名
8月3日	大人55名 こども26名	2月1日	大人52名 こども15名
9月7日	大人54名 こども17名	3月1日	大人56名 こども17名

よつ葉の会が育む「地域とともにある福祉」 ～理念・実践・心構えをひとつに～

社会福祉法人よつ葉の会は、「輝ける未来のために 一人ひとりの役割を果たそう」という理念のもと、地域の中ですべての人がその人らしく輝き、生きることができる共生社会の実現を目指し、福祉の現場で日々の実践を積み重ねています。その理念を体現する場として、特別養護老人ホーム瀬古の家は、「グッドライフの実現」と「自律支援介護」を柱に、利用者の尊厳を守り、思いに寄り添うケアに取り組んでいます。ケアは施設の中にとどまらず、地域全体に広がる福祉の輪として展開されています。瀬古の家では、「高齢者サロン活動」、「認知症カフェ」、「みんなの食堂」など、地域に根ざした実践を通じて、多世代のつながりと支え合いの場を育んできました。また、学校や自治会、福祉団体との交流、地域包括支援センターや訪問介護・看護事業所との連携を通じ、地域全体で支えるネットワークを築いています。福祉人材の育成にも力を注ぎ、実習生の受け入れや研修の場としても地域に貢献しています。さらに名古屋市の福祉避難所として、災害時の支援拠点としての準備と連携も強化しています。

よつ葉の会職員の心構えには、「ありがとう」の気持ちで人と向き合うというのがあります。出入り業者、配達員、清掃スタッフ、近隣住民、日々の現場に関わるすべての人へ「いつもありがとうございます」「今日もお疲れさまです」と声をかける。それは単なる挨拶ではなく、地域とつながる福祉を育てる第一歩だと考えています。この「ありがとう」の心がけは、職員同士の信頼を育み、入居者やご家族、地域の方々との絆を深め、やがて「思いやりが自然と生まれる文化」となって施設全体に根づいていきます。



瀬古の家が地域に果たす“約束”と役割

1. 地域に開かれた福祉の拠点であること

瀬古の家は、入居者のためだけの施設ではなく、地域に暮らすすべての人の安心を支える場です。高齢者サロンや認知症カフェ、子ども食堂などを通じて、多世代がつながり合い、孤立を防ぐ“居場所”を提供しています。

2. 地域課題の解決に向き合うこと

地域の高齢化、認知症、障害のある方の支援、子育て世帯の孤立など、地域の課題に正面から向き合い、支える仕組みを地域とともに築くことが、社会福祉法人としての大きな使命です。

3. 「支え合いの地域社会」の担い手であること

学校・自治会・ボランティア・福祉事業所・行政などと連携し、地域ぐるみで高齢者や子どもたちを見守るネットワークの中心的存在として機能しています。

4. 専門性を地域に還元し、育てること

福祉人材の育成の場として、実習生を受け入れ、地域に福祉の知識と文化を広げる「学び舎の役割」も担っています。また、多くの職員が地域で働くことで、地域雇用にも貢献しています。

5. 災害時の地域の支えとなること

名古屋市の福祉避難所に指定されており、災害時には高齢者や障害のある方の命を守る拠点となります。平時からの信頼関係の構築こそが、有事の対応力を高める鍵です。

6. すべての人に「ありがとう」の気持ちで向き合うこと

「福祉は人と人との関係性で成り立つ」という考えのもと、感謝と敬意をもってすべての人に接し、あたたかな地域社会を育むことを大切にしています。

私たち社会福祉法人よつ葉の会は、“誰一人取り残さない、支え合いのまち”をつくることを約束し、地域に開かれた福祉の拠点として、真摯に、そして情熱をもって歩み続けてまいります。



地域との水防学習会

以啓新
社会福祉協議会
地域住民



赤い羽根共同募金に協力

社会福祉協議会さんと連携



01 |



02 |



03 |



01 |



02 |



03 |